

脳神経外科を受診している患者さんへ

当院では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会で倫理的観点及び科学的観点から中立的かつ公正に審査され、研究機関の長に認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。この研究へのご質問や研究に係る相談だけでなく、個人情報の開示を希望される場合、研究計画書及び研究の方法に関する資料の入手又は閲覧を希望される場合は、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。研究計画書等は、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で閲覧が可能です。

記

研究課題名	多視点撮影による三次元手術記録の作成と教育および臨床への応用
研究機関の長(試料・情報の管理責任者)	愛知医科大学病院 病院長 道勇学
研究責任者	頭蓋底外科センター 准教授 岩味健一郎
研究の対象となる方	研究実施承認日から 2026 年 11 月 30 日までに愛知医科大学病院脳神経外科にて開頭手術を受ける患者さん
研究期間	研究実施承認日 ~ 2027 年 3 月 31 日
研究目的及び利用方法	<p>〔研究目的〕</p> <p>多くの施設にて手術の内容は、単一視点から撮影した二次元の静止画・動画として記録されています。多視点から撮影して三次元の形状も記録することで、手術内容を詳細に検証して術後診療に役立てたり、医学生や外科医の教育に役立てたりすることが可能かどうかを研究目的とします。</p> <p>〔利用方法〕</p> <p>現在既に当院で使用されている 3D 外視鏡は、二つのカメラで撮影した画像を三次元動画としてモニターに描出する手術機械であり、こうした画像を観察しながら繊細な手術が行われています。術中に撮影されるこれらの動画や静止画に加え、術野外に小型のカメラを追加で設置し、多方向から手術内容を記録しています。撮影により手術方法などが変わることはありませんし、患者さんの個人情報特定されるような撮影は行いません。</p> <p>多方向から撮影された画像を術後に合成することで、手術中の術者の手の動きや変化する術野の状態を任意の方向から観察可能な三次元手術記録を作成します。三次元手術記録を用いて、臨床や教育に役立つかどうかを検討していきます。</p> <p>〔外部への試料・情報の提供〕</p> <p>非該当</p> <p>〔外部への提供開始日〕</p> <p>非該当</p>
研究に用いる試料・情報の取得方法及び項目	<p>試料：非該当</p> <p>情報：手術中の術野を静止画および動画として撮影するほか、診療録(カルテ)から、年齢、性別、手術所見等を収集します。</p>
提供する試料・情報	非該当

を用いる学外の研究責任者	
試料・情報を利用する学外の者	非該当
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、2027年2月28日までに郵送、電話等により下記問い合わせ先まで申し出てください。
外国への試料・情報の提供	非該当
問い合わせ先	愛知医科大学病院 頭蓋底外科センター 担当者:(職名)准教授 (氏名)岩味健一郎 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311(内線 22138)